

## 王貞治の偉大さ

校 長 武井 正明

生まれて初めて野球観戦に行ったのが赤ヘル旋風で広島カープがリーグ初優勝した年、1975年3月23日後楽園球場、川上哲治監督の引退試合。自分は9歳。遠くレフトスタンドから観た王貞治の一本足打法は美しく、フラミンゴのように映った。

しかし、その試合中肉離れをしてしまうのだ。王選手はおんぶされて球場を去った。それが振り返れば、長嶋新監督1年目、屈辱の最下位への暗雲となった。

時は経ち1979年8月28日中1の夏、伯父の伝手で後楽園の内野席で観戦できることになり、ワクワクして迎えた前夜、送球を捕球しようとした王選手は走者と交錯し、あばら骨を骨折してしまった。翌日観に行った試合の四番は張本だった。張本かあ…王のホームランを生で観たかった。またとないチャンスだったのに…結局観られなかった。

王貞治…通算868本の本塁打を放った世界のホームラン王、「国」という題名で道德の授業でもやらせていただいた。亡き母、義母と同じ学年の86歳。

今回、世界少年野球大会理事長として王さんが先週8日に南魚沼市を訪れた。南魚沼市はベースボール・マガジン社創設者池田恒雄の出身地。来夏その大会がやってくるという。新潟では初開催。きっと王さんもまた来県されるだろう。大いに楽しみだ。

私が王貞治の偉大さを思う時、ダイエー監督時代のエピソードが不可欠だ。

巨人軍監督の後、王は現福岡ソフトバンクの前身、福岡ダイエーの監督を務めた。今でこそソフトバンクは強豪球団だが、当時のダイエーは最弱だった。あまりにも情けない負け試合が続き、試合中も罵声が止まなかった。「頼むからヤメテくれ!!王」の横断幕まで出た。そしてついに1996年5月9日夜、事件は起きる。

この日も大敗を喫したダイエーに怒りが頂点に達したファンたちは、選手らの乗るバスを取り囲み、大量の生卵やゴミをぶつけたのだ。これが、知る人ぞ知る「生卵事件」

宿舎に戻った王監督は、選手関係者を招集してミーティングを開いた。

プライドをズタズタにされ怒りと悔しさに満ちた選手たちに、王監督はこう語る。

「こういうファンが本当のファンなのだ。こういうファンこそ俺達が勝った時、誰よりも喜んでくれるファンなのだ。だから勝ってこの人たちを喜ばせよう。勝つしかないのだ!!」

現場に選手でいた現SB監督の小久保浩紀は、この時の王監督が忘れられないという。

これは学校教育の世界も同じ。校長として私も王監督に同感だ。

苦言を呈してくださる保護者ほど、吉田中学校に思いのある方だ。そして苦境に立った時こそ、最大の味方となって支えてくださるのもこういう方々だ。

だから誠心誠意努めることこそが、その思いに報いる唯一の道なのだ、と。（敬称略）